



担当：伊達市 島明美

松江 寛人 院長

<略歴>
 1936年東京都生まれ
 1962年千葉大学医学部卒業
 1963年国立がんセンター病院
 放射線診療部勤務
 1974年米国タフツ大学
 放射線科客員教授
 1977年国立がんセンター病院
 放射線診断部医長
 2001年7月国立がんセンター病院
 退職
 2001年8月がん総合相談センター
 開設
 ・超音波医学会超音波指導医
 ・日本胃癌学会評議員
 著書に
 「乳腺画像診断法」「乳腺超音波診断法」「最新胃X線検査技術」「脾疾患の超音波診断」

豊富な経験と丁寧な診察 心強い松江院長

山下俊一氏が中心になって18歳未満の子どもたち4万人以上の甲状腺検査をして、その43%から何らかの異常が見つかりました。しかし『放射線とは関係ない』と放射線に詳しいはずの人が言っています。たしかに、放射能と関係あるかどうかは証明することは非常に難しいことです。だからといって放射能の影響ではないというのは納得できません。私は放射線科の医者であるにもかかわらず、恥ずかしいことにこれまで何もしてこれませんでした。反省も込めて、やれることを精一杯がんばります。



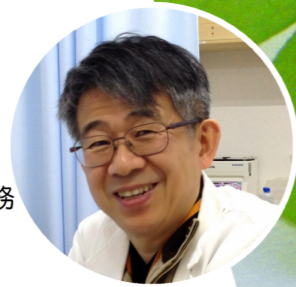
3. 11以降、県民健康管理調査の「秘密会」の存在などで、国や行政からの情報を信頼できなくなりました。甲状腺検査の報告についても疑問と不安が残る一方です。その中で、松江先生の言葉がとても力強く響きました。福島医療に希望が見えたと思います。



趣味は仕事！

杉井 吉彦 先生

<略歴>
 1950年 奈良県生まれ
 1980年 東京医科大学卒業
 同 武蔵野赤十字病院勤務
 1982年 同 整形外科入局
 1989年 同 整形外科副部長
 1992年 本町クリニック開設
 2001年 国分寺やすらぎの里開設



とっても気さくな杉井先生 やさしい声で熱い思いを語って下さいました

福島、郡山、伊達市その他の地域でも長期の低線量被曝が心配される現状です。甲状腺のみでなく他の健康不良も視野にいれ、総合的な診断が必要です。

早期発見を念頭において、ひとりひとり、丁寧な対応を心がけて行きたいですね。

お母さん方の不安な心に寄り添いながら、厳しい現実と共に向き合える診療所にしていきたいですね。

INTRODUCTION OF THE STAFF ～診療所の先生～

布施 幸彦 先生

<略歴>
 1954年 島根県生まれ
 その後東京都で育つ
 1980年 杏林大学医学部卒業
 1981年 群馬大学病院第2内科入局
 1990年 館林厚生病院 第2内科医長
 2008年 館林厚生病院 副院長



趣味は
読書、スキー

毎週、館林から車で通っている とってもアクティブな布施先生

早期発見、早期治療を重視して行くだけでなく、予防のための指導もやって行きたいですね。また地域に根ざした診療所でありたいですから、仮設住宅回りも積極的に取り組みます。

仮設住宅では環境の変化で体を動かすことが少ないせい、手足のしびれや、睡眠障害を訴えるひが多いため、健康相談会も引き続き行っていくつもりです！

お母さんの アンテナ

このコーナーは、お母さんの広場です！みんなに聞いてもらいたいこと、提案したいことなど、あなたがレポーターになって、発信してください！

今回は、伊達市のお母さんからです

昨年3月に県民健康管理調査甲状腺エコー検査結果が一通届きました。当時小4と中2の子どものうち一人に「A2」判定が出て、そこから、放射能の影響への疑問と不安が現実のものとなってきて、友人やPTAの仲間に聞き歩きを始めました。
 下記は、その一部です

診断等について

- 医大のエコー検査は1分だと聞きました。本当にそんなに早く分かるのでしょうか。
- 2次検査の必要はないということで、安心して「A1」か「A2」かどちらかかも忘れてしまいました。
- 違う病院で調べようと思ったら、受診拒否されました。

- 横浜で検査を受けようと思ったら「福島県民は検査できません」といわれ東京の病院を紹介されました。
- 医大からの検査結果は、「A2」判定記載のみ。電話で聞いたら大きさを教えてくださいました。

- 血液検査をし、基準値外になってる子どもも複数います。どうなのでしょう？
- 今後、何に気をつけ生活して行けばいいのでしょうか？
- 甲状腺の不安をお母さん同士でなかなか話すことができません。
- 甲状腺を手術しても、その後ホルモン剤を一生飲み続けると聞きました…。
- 最近風邪を引くとなかなか治りにくいです。甲状腺機能障害だと免疫力が落ちると言うし…。

不安感

- 震災後早い時期に部活やスポ少で、除染してないグラウンドで運動していたのでとても心配です。
- 病院の先生から海藻類を食べよう言われ、昆布や海苔をたくさんとっています。本当に効果があるかどうか疑問です。でも今はそれを信じるしかない…。

のう胞

- のう胞がたくさんあり、蜂の巣状になっていると、セカンドオピニオンを受けて初めて知りました。
- セカンドオピニオンの先生から、たくさんのおう胞があると、しこりになると聞きました。
- 医大の検査では、「A1」だったのですが、違う病院で見てもらったら、のう胞2.5ミリが2つありました。
- 違う病院で調べたら、医大の結果より倍の大きさでした。
- 別の病院の検査では、のう胞が数えきれないと言われ、半年ごとに通う予定です。

川俣町のお母さんの 声

川俣町の検査結果は、2011年11月に出生した。ある子どもは、その時「A1」（異常なし）であったが、一年も経たずに、「A2」まで進んでいます。私の子どもも、セカンドオピニオンで見てもらったら、3カ月も経っていないのに大きくなって、数も増えています。

チェルノブイリの医師が講演にきた時、2、3カ月ごとの検査が理想的と聞きました。それが約束されれば、親はその間は、安心していられるのです。2年後なんてひどい話です。

